

TRAIL OF TEARS

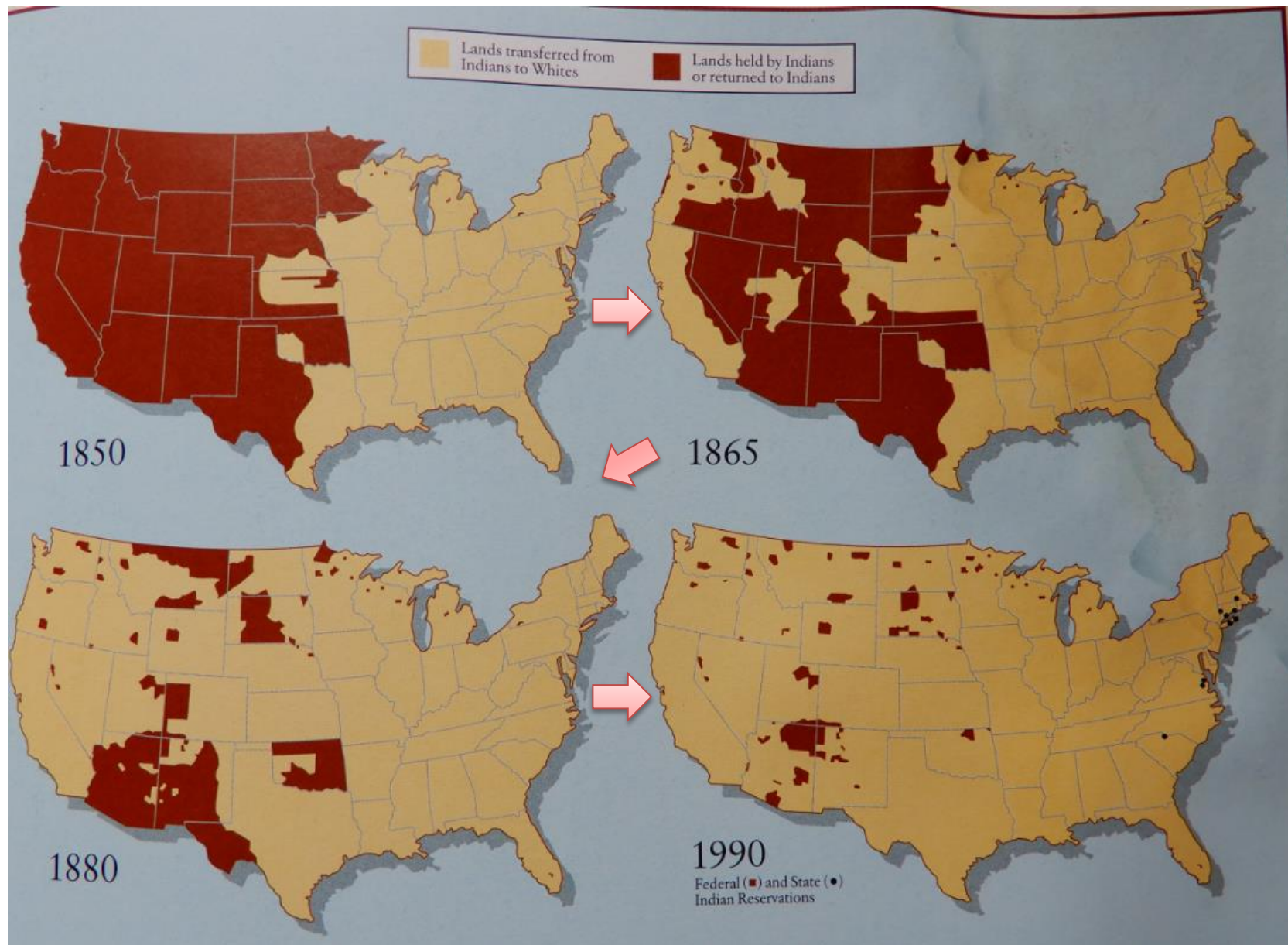
NATIONAL HISTORIC TRAIL



WESTERN
NATIONAL PARKS
ASSOCIATION

涙の街道

Seiji Suzuki



抑制されたインディアンの居住地域の状況

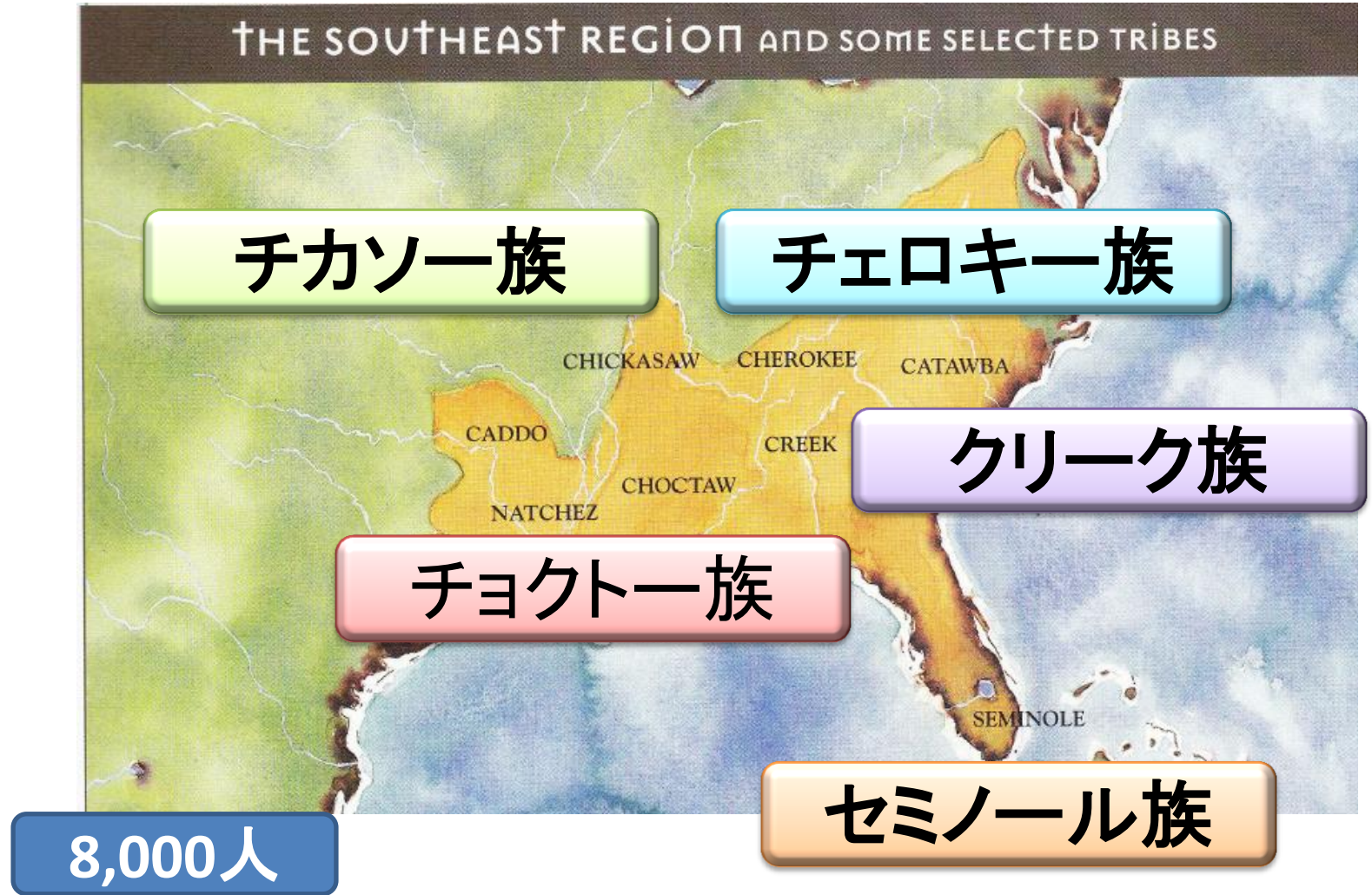


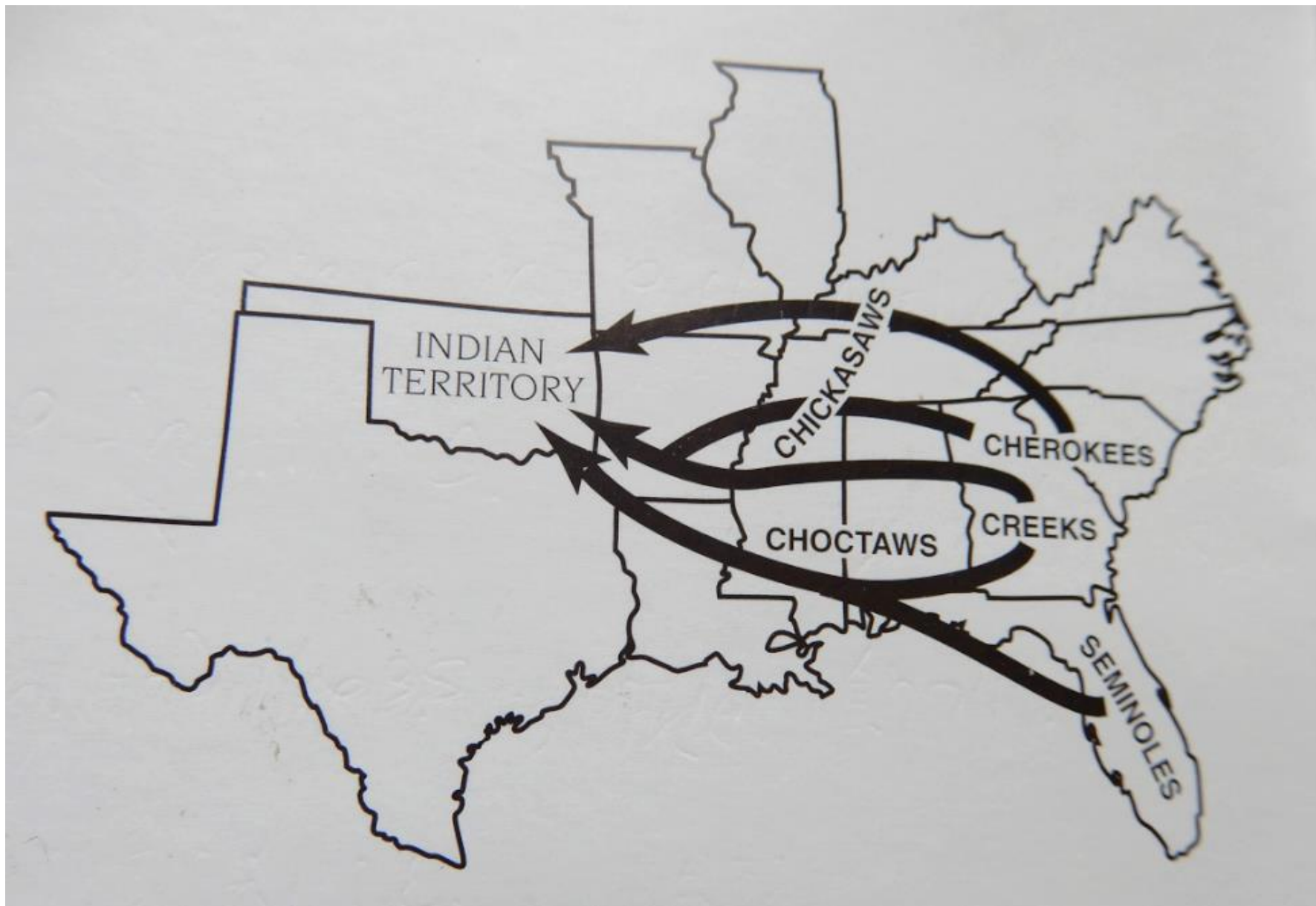
北東部でのインディアンと白人の戦い

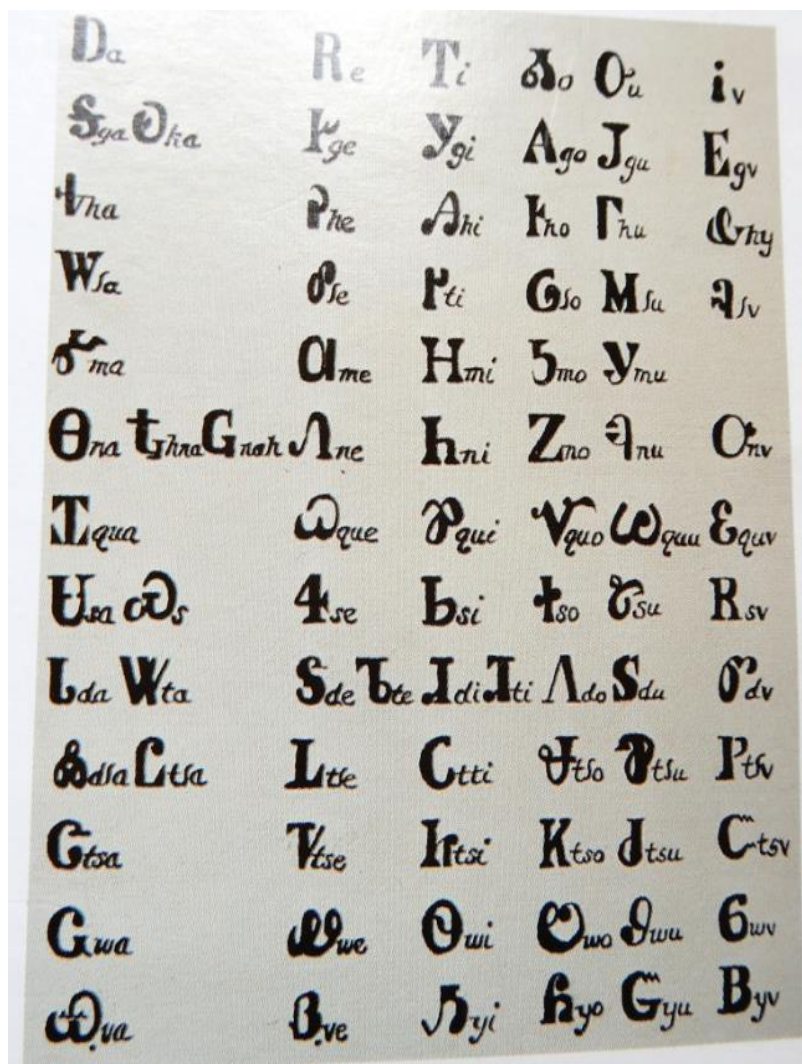




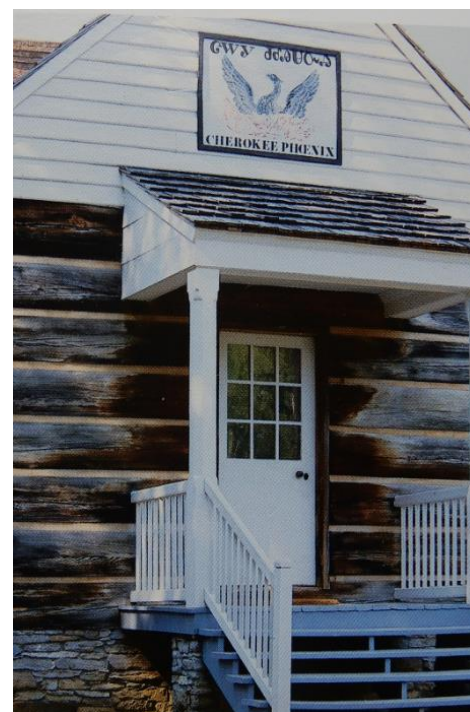
1800年







チェロキー族の銀細工師、Sequoyah(George Guess)
が開発した部族の音節表を開発した

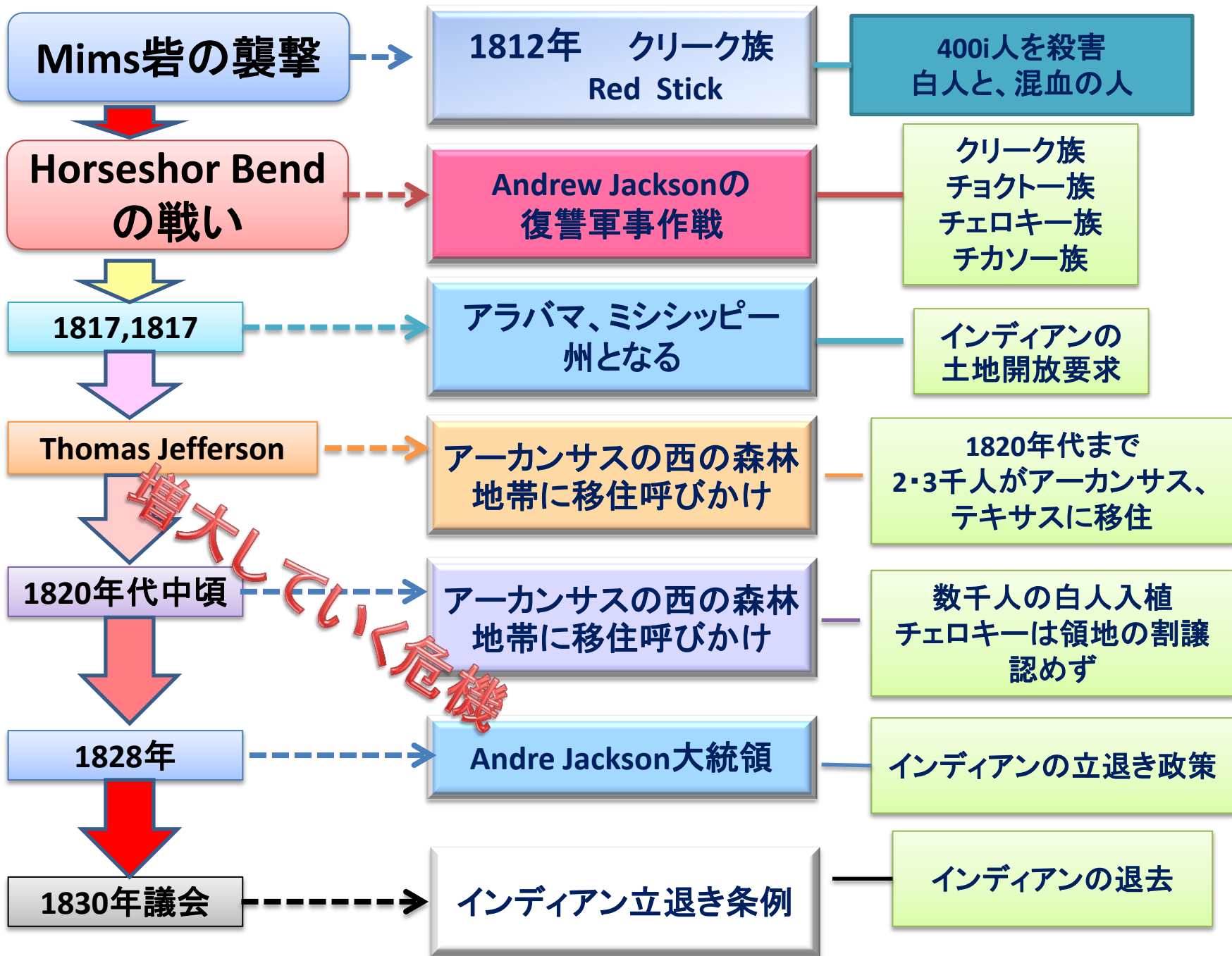


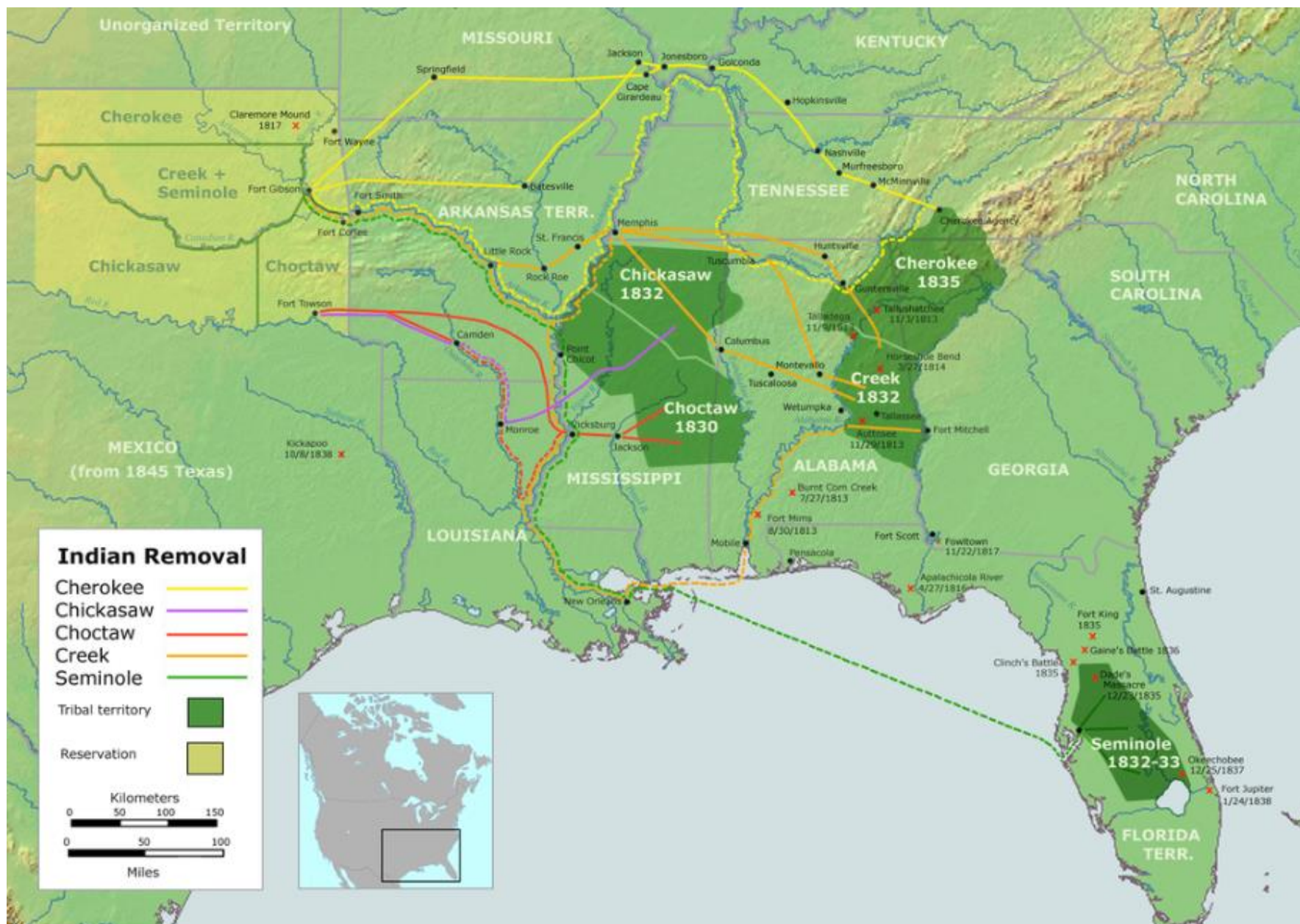
チェロキー フェニックスの印刷店、
New Echota, Georgia

辺境地の男たちが原住民の女と結婚すると、混血の人口の増加が、あらゆる部族の中で見られた。



部族の政策を捻じ曲げて行った。





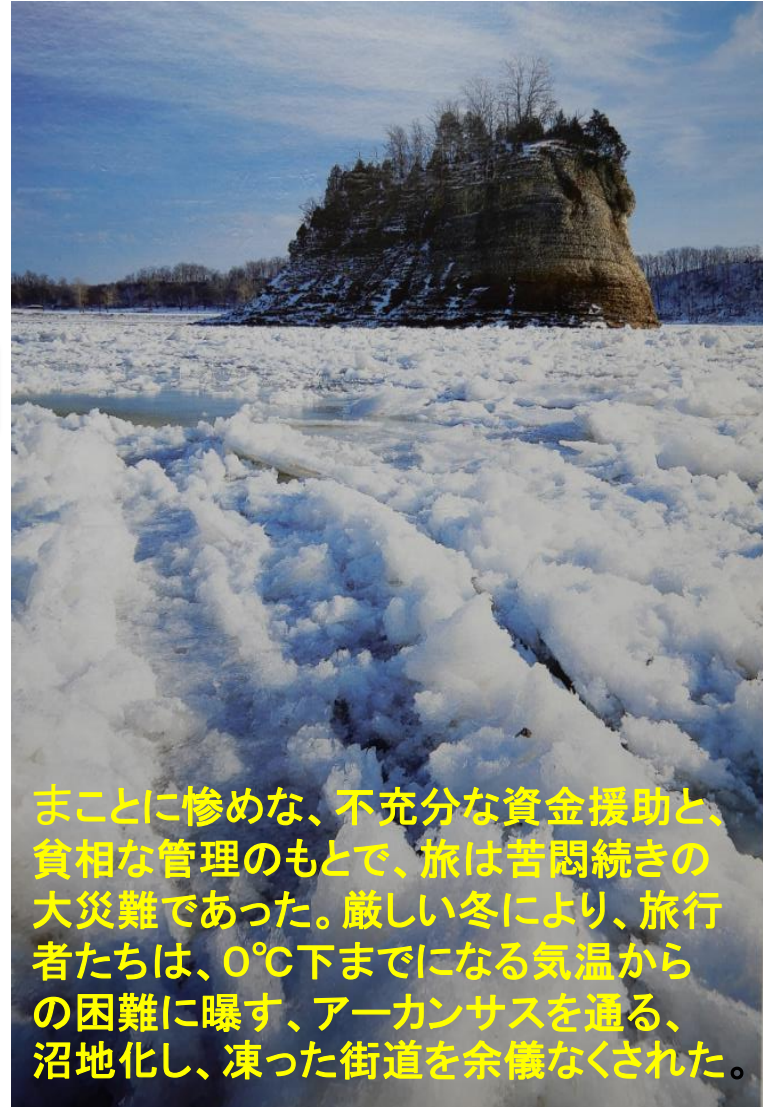
チョクトー族とチカソー族の退去

Jacksonの代理人は、彼らに素晴らしいミシシッピーの土地を大幅に認容することを提案

最初の移住が1831年に始まった

ミシシッピーの北部からテネシー州をとおりメンフィスに向い、そして、Little Rockを通してアーカンサスを横切り、そして、インディアンの居留地の南部に到達

ミシシッピー州の中央をぬけ、アーカンサスの南部をとおる、最初の街道に合流



まことに惨めな、不十分な資金援助と、貧相な管理のもとで、旅は苦悶続きの大災難であった。厳しい冬により、旅行者たちは、0℃下までになる気温からの困難に曝す、アーカンサスを通る、沼地化し、凍った街道を余儀なくされた。

チョクトー族の血族であるチカソー族は、いくらかはよいような条件

Pontotok条約(1832)は、ミシシッピ州の北部にある彼らの譲渡した土地に対して幾分よいような支払いを提案していた

1837年に彼らが西部に旅をした時に、彼らはチョクトー族の北のルートを通った



荒れた道と、そして、行く先々で商人たちに誤魔化されて、予定がずっと遅れ、彼らは、目的地からはずっと離れたところで冬になってしまった。“私は、ここでチカソー族とともに飢えている。”と、政府の代理人が書いていた。旅の終わりごろ、旅行者たちは近くに居たチョクトー族を襲っていた天然痘に見舞われた。そして、1838年の衝撃的な干ばつが、旅を終えたおおよそ6,000人の人達をさらに苦境に曝した。

彼が、どこでも、火に、また、水に囲まれるまで、我々は、間違った道案内についていく無学文盲のよそ者のような自分たちに気づいた。反対側のずっと遠くの川岸が希望を抱かせてくれている；残ることは、避ける事の出来ない絶滅なのだろう。誰が躊躇するのだろうか、誰が、自分が水中に飛び込むことは自分の意思に従った行動だというのだろうか？

チョクトー族の指導者、Harkins

クリーク族

強制的な退去

1812年の戦闘のあと、他のどんな南部の海岸辺りよりも沢山の白人がアラバマ州に押し寄せてきた。クリーク族の領地、ここは、州政府により邪魔をされない土地であったが、ここに数千もの人が侵入してきた

1832

1832年に、クリーク族の交渉者たちは、寛容な譲歩とも受け取れるようなものを認めた。**Washingtonの協定は**、アラバマ州東部の500万エーカーという広大な部族の領地を放棄したが、しかし、200万エーカーの土地は、留まることを希望する人達のために分配される土地用に外された。

しかしながら、直ぐにこの協約は反故されてしまった。



取引商たちは“イナゴのように・・・、インディアン達を、もののように食いつぶし、彼らの家庭を酒浸しにしている。”



“むちゃくちゃな陰謀”に迎合するような激しい抗議を喚起した。**Lewis Cass** 直ぐに軍に対し、抵抗を粉碎し、そして、全てのクリーク族をまとめて、西部に連れて行くように、介入を要請した。軍隊は、事実上、“クリーク族との戦争”で、これに参加した者、あるいは、同情した者、1,600名を取り押さえるのに、何の抵抗にもあわなかった。

男達は、足かせを付けられ、手錠を嵌められ、そして、アラバマ州の Mobile から、ミシシッピー州、そして、アーカンサス州の上流にスチームボートでつれていかれた



不適切な供給、悲惨な食料、がたがたの装備、そして、強烈な暑さが、誰が見ても衝撃を与えるような状況に追い込んだ。ある者が、“これほどまで、悲惨で、貧弱なインディアンを私はこれまで見たことが無い、.....彼らは、実に何も持っていないのだ。”と言っていた。

数千もの人が....、全く靴や彼らの足を保護するものも履かずに；多くの者は、殆ど裸足で、そして、ごくごく薄い某のものも持たずに.....このような悲惨な状況のもとで、彼ら刃、冷たくなったぬかるみに入って歩き、そして、凍った大地を早く歩く様にせかされている.....彼らの多くが....亡くなり、そして、道路の脇に捨てられて、簡単にかすりを駆けられるだけで一狼たちにむさぼられるまで、そこに残っているのだ。



人口の4分の1の人が、クリーク族の試練の涙の行進の終わる前までに、亡くなった

チェロキー族

苦しい体験

1829

Dahlonegaa (ジョージア)
で金鉱が発見された。



州議会がチェロ
キー族の土地を
押収

酋長のWomankiller

彼の部族のものは、“友好と言う金の鎖”により、白人たちに縛られている。もはや、多くの人々が、国、そして、州の政府も、“圧制を働き”、そして、自分たちの土地に住んでいるチェロキー族を殺すようにさせられている。
死でさえも、自分たちの故郷を放棄することよりもましだった

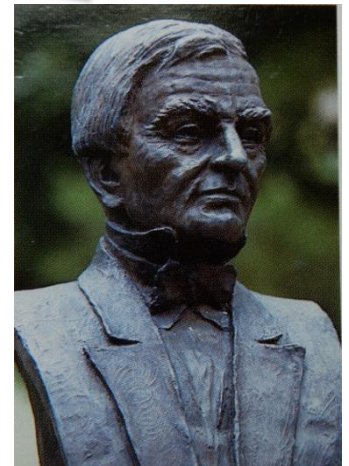
ジョクソン大統領の策略

会議に出てこない者は、賛成したものと見なす

チェロキー族はミシシッピ側の東の全ての土地を譲渡する。政府は、(決して実行しなかったが、)\$55ミリオンを支払うことになっており、そして、アーカンサスとグランド川に沿ったオセージ族の人々が住んでいる近くのインディアン領地に新しく居住地を用意するというもの。合衆国政府は、移住のための予算に同意した。

1837までに退去

彼は、数千もの家族が、数百マイルも旅するということが、たいへんな試練になるものと知っていたのだ。



John Ross

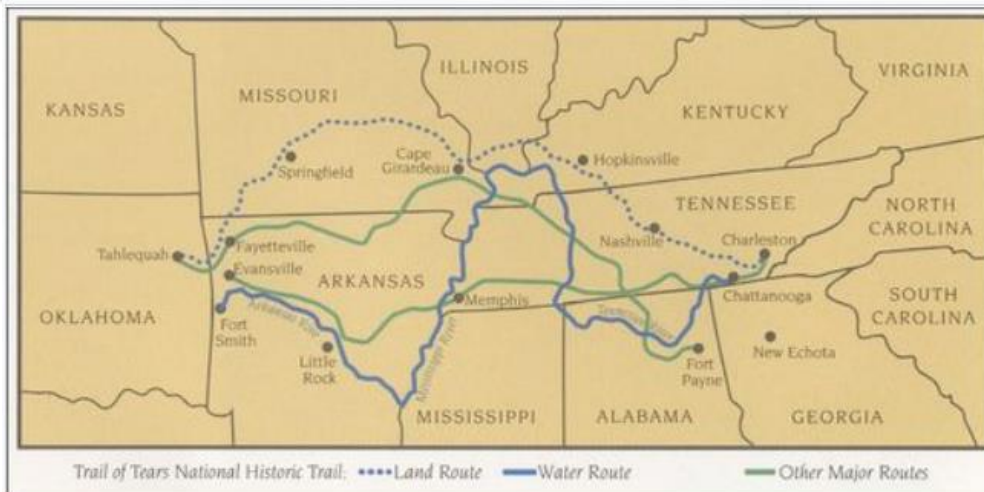
チェロキー族の退去

移住の拒否

1837 Winfield Scott将軍

全てのチェロキー族の者を捕らえ、そして、彼らがインディアンの居留地に連衡されることができるようになるまで閉じ込めておくことになっていた。

数百人もの奴隷を含む、立ち退きされられる人達は、まず、チェロキーの町の直ぐ近くの31のキャンプに連れて行かれた。後に彼らは、アラバマ州に一つ、そして、残りはテネシー州にある11個の抑留所に移され、そして、連行されるのを待たされた。不潔な状況に詰め込まれ、そして、交互にやって来る暑さと雨により伝染病がはやり、チェロキー族の人達はゼーゼーという咳、囊虫、肋膜炎、そして、疫病に苦しんだ。赤痢が流行した。6月の終わりには、子供と老人が特に危険であったが、死体が山と積まれた。多くの軍の役人が苦痛を下げようと努力した一何の効果もなかった。夏の間中、死者の数が増えた。生き残った人々は、弱り果て、士気をくじかれていた。



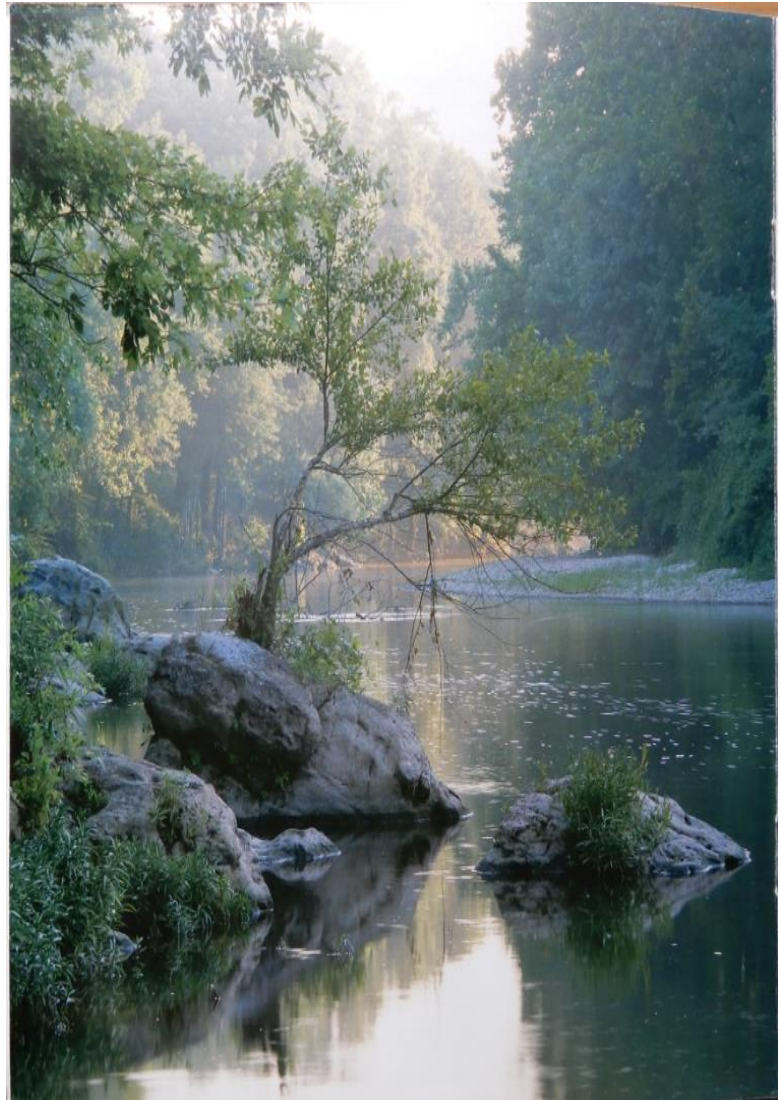
「涙の道国立歴史の道」のルートマップ。青い点線は陸路、青い線は水路、緑色の線はその他の移住経路

アーカンサス川は干上がり、数百名の人々は、最後の行程を徒歩と馬車で行かなければならなかった。岩だらけで、整備のされていない自然のままの道で、強烈な暑さと窒息しそうな誇りで、病気と、年寄りたちは恐怖に苦しめられた。毎日のように、新しい墓が掘られた。70人もの人が、旅の終点近くのLee's Creekあたりで、飢えて行進していた者が、未熟なトウモロコシと桃をたらふく食べて、赤痢にかかり亡くなった。

伝道使節の医者のElizno Butlerは、4,000人ーチェロキー族の人口の5分の1、以上のチェロキー族が死んだと推定していた。



チェロキー族の後に残った領地、Oconaluftee Creek
Great Smokey Mountains Nation Park



オクラホマのイリノイ川に沿ったチェロキー族の今日の土地

セミノール族

戦争と退去

1835

政府の代理人
人を殺害

彼らは、南フロリダの他州に挟まれた狭い土地に住んでいる人達で、彼らは、白人たちからの干渉を余り受けることもなく、比較的に自由であったことを放棄するのを好まなかった

アメリカ人の歴史の中で、最も長い戦争の一つが始まった

最後の血の滴るまで

Oceola
Wildxcat
BillyBowlegs
Crazy Alligator
Jumper
Abraham

7年間の間、軍の部隊とクリーク族、シャウニー族、デラウェア族、その他の部族からの呼びかけに応じたインディアン達が、フロリダの深い森の中を、湯気のようにもうもうとした沼地を、キャンプや食料の宝庫を破壊しながら、逃亡者たちを追い立てて、進んでいった。

1836年に退去させられたグループの407人のうちの25人のものが、スチームボートがSmith砦に到着する時までに亡くなった。それに続く3週間は、もっとうつとひどかった。雨で足止めを食い、そして、深い泥濘に足を取られ、彼らはテキサスの新しい居留地に向かってはいずりながら進み、多くの日々で、水に漬かったキャンプ地の近くに3人とか4人の死者を葬った。

政府は、更なる追撃は、犠牲を払う価値が無いと決断した。捕まえられていないセミノール人はエバーグレードの地域に残ることを認められた。

1842

退去は決して完結したわけではなかった

チェロキー族

400名のチェロキー族の者が、拿捕を逃れて北部カロライナの地域に残っていた

クリーク族

Poarch Creekの血族集団が、アラバマ州の南部Atmoreに留まっていた

チョクトー族

ミシシッピーの社会の重要な立場にある

チカソー族

セミノール族

エバーグレードに残った

チョクトー族、チカソー族、クリーク族、チェロキー族、そして、セミノール族は、今日でも生き残り、隆盛を極めてきた。チェロキー族だけでも180,000人以上の人が登録されており、65,000人の人達が、部族の支配権の下で、オクラホマの地に住んでいる。五つの全ての民族が彼ら独自の部族の政府を所有している。

旅の道を歩いた人々にとっては、とても乗り切れるような辛さではなかった。それ以後の何十年の間、政府はしきりに部族の文化を抹消しようと直接努力をして来た。宗教的な儀式や踊りは禁止された。とてつもない圧力が、彼らをキリスト教徒にするために払われた。執行者たちは、社会的、ならびに、個人的な習慣、衣装の様式、そして、男達の髪の毛の長ささえも厳しく規制した。人々は、家族や、個人の尊厳を損なうような、英語化した名前を付けされた。部族の統治は、徐々に衰え、そして、覆されていった。子供たちは、部族の言葉が禁止され、部族の慣習は抑制された学校に行くことが強要された。1880年代から1930年代にかけて政府の分配プログラムが部族の持つ共同土地保有を、ある部分については部族のものに個人の所有をみとめ、あとの残りは、入植者に開放するというような形で、この権利の解消を行おうとした。こうした、アメリカインディアンの集合的なものと個人的な生活を規制しようという努力は、国の歴史の中では、何ら、一致するものではなかった。

Wilma Mankiller チェロキー族主酋長

“我々は、かろうじて何とかやって来た
のではない。我々は、確固たる、確信的
なやり方でしかとやって来たのだ”



チェロキーの木工技術者

A silhouette of a traditional Japanese-style pavilion with a thatched roof stands on a dark beach. The background is a vibrant sunset sky with orange and yellow hues, and the ocean is visible in the distance. The text "Good bye !!", "ありがとう ご在ました", "Meet a trace.", "Thank you", "Seiji Suzuki", and "2018 12 24" is overlaid on the image.

Good bye !!

ありがとう ご在ました

Meet a trace.

Thank you

Seiji Suzuki

2018 12 24